



石碑「敬神崇祖」ご奉納の書家・杭迫柏樹氏ご夫妻（平成23年9月24日）

<http://www.okunijinjin.or.jp>

師走の折から

境内に点在している石路は、今年も黄色い花を榮ませてくれました。緑の葉とのコントラストがとても華麗です。数年前に氏子の方からご奉納戴いたものですが、年々順調に生育しております。また、参道の両側にある南天が、色鮮やかに赤い実をつけました。「難が転ずる」と言われ、縁起の良い花です。南天は植えたものではなく、以前の自生の物と聞いております。

さて、一年の中でも紅葉の時期は、多くのご参拝の方にお越し戴きました。九月末に遠州灘より上陸した台風十五号の塩害により、近郊の紅葉の色付きがあまり芳しくないとのことでしたが、当社の紅葉は色付きが一週間程度遅れたものの、例年と遜色ない状況でありました。テレビ、新聞等にて報道されましたが、当社のWebサイトでも紅葉情報を提供しておりますので、今後は併せてご活用戴ければ幸いです。特に本年は森町ご出身で京都在住の書家・杭迫柏樹先生喜寿記念の個展「ふるさとの詩展」が開催され、自然と文化を堪能して戴きました。十六日間の期間中に雨天が四日あったにもかかわらず、約一万人の入場者があり大好評の内に終了致しました。更に開催中は地元の実行委員の方々が毎日交替で受付やご案内を務められており、杭迫先生のご人徳は申すまでもありませんが、同期の絆には感服したところであります。先生の益々のご活躍を衷心よりお祈り致します。

ところで、先の東日本大震災による被災地の復興が、遅れているようで心配です。津波にさらわれた神社では、仮殿の建設が進んでいます。また中には、神社の復興に向け動き出した社もあり、これからの支援の本番だと思えます。一方、福島県の原因被害の地域は立ち入ることもままならず、神職さんの気持ちを探ると胸が痛みます。この度の歴史上特筆すべき大災害を、国民は自分の目で見て記憶に残すべきだと思えます。一人でも多くの方が、現地に立たれることを願ってやみません。

先日、平成二十五年に遷宮を迎える伊勢の神宮へ恒例の参拝団が実施され、当町から二百数十名の参加者がありました。この参宮が済むといよいよ師走も本番です。日々迎春準備が進み、大晦日には大祓式を斎行いたします。氏子崇敬者の各位におかれましては、呉々もご自愛の上良い辰年をお迎えくださいますようお願い申し上げます。

新嘗祭の斎行・ 奉納農産物品評会の表彰

晴天に恵まれ大勢の参拝者で賑わう十月二十三日、新嘗祭が斎行されました。氏子の皆様方よりご奉納いただきました農産物をご神前にお供えし、今年一年の豊穰をご奉告と感謝を申し上げます。

また、舞殿横では今回で五十五回目を迎える当社振興会主催の奉納農産物品評会が開催されました。

台風被害の影響が心配される中、三二点もの出品をいただきました奉納農産物は、新嘗祭斎行後の即売会にて大盛況のうちに完売となりました。ここに品評会にて受賞された方々をご報告させていただきますとともに、氏子内の部長会長様をはじめご協力いただきました皆様方に厚く御礼申し上げます。



新嘗祭の斎行（11月23日）

- 第一位 牛 飼部農会
- 第二位 上川 原部農会
- 第三位 橘 部農会
- 第四位 中川 上部農会
- 第五位 円田 上部農会



奉納農産物の即売（大盛況!!）

- | | | | |
|-------------------|------|-------|-------|
| 〈小國神社賞〉 | 米 | 円田上 | 鈴木 紀雄 |
| | 茶 | 中川上 | 本多 利吉 |
| | 大根 | 宮代東 | 松尾 貞子 |
| | 白菜 | 中川上 | 鈴木 陸秀 |
| | 白郎柿 | 谷 中 | 朝比奈輝男 |
| 〈遠州中央農業協同組合代表理事賞〉 | 米 | 谷 中 | 鈴木 保雄 |
| | 馬鈴薯 | 中川上 | 伊藤 誠 |
| | レタス | 谷 中 | 鈴木 孝映 |
| | メロン | 米 倉 | 平田 秀幸 |
| | 柿 | 谷 中 | 藤田 良通 |
| 〈小國神社振興会賞〉 | 大豆 | 円田上 | 鈴木 利枝 |
| | 白ネギ | 円田上 | 鈴木 紀雄 |
| | サンマ芋 | 宮代東 | 松尾 貞子 |
| | 生姜 | 宮代西 | 角ヶ谷武治 |
| | みかん | 中川下 | 山本 栄 |
| 〈特等賞〉 | 大根 | 宮代東 | 大場 正一 |
| | キャベツ | 宮代東 | 松尾 貞子 |
| | かぶ | 草ヶ谷 | 小澤 弥一 |
| | つくね薯 | 米 倉 | 山本 雄一 |
| | ほうき | 米 倉 | 平田 一利 |
| 〈特別賞〉 | 牛 飼 | 村松伊佐雄 | (敬称略) |
| 十四点出品 | | | |

川勝平太静岡県知事献詠歌碑の奉納

十一月十九日、川勝平太静岡県知事勅使参向歌碑の除幕式が、川勝県知事ご臨席のもと、小國神社責任役員、振興会、敬神婦人会、氏子青年会等関係者のご出席を戴き行われました。

本年四月十七日に実施された「森町民俗芸能・民俗公開大会」において、川勝県知事が勅使・遠江守大佛宣時役としてご奉仕され、和歌を三首ご披露いただきました。この歌碑はそのうちの一首を、県知事が短冊に書かれた通りに美濃産の自然石に刻んだもので、振興会設立六十周年また勅使行列再興五十周年を記念して建立されました。

「しきしまのやまと想ほゆ森町の
小國神社に勅使出で立つ」



川勝平太静岡県知事（真中右側）（11月19日）

篤志奉納者に感謝状の贈呈

本年も新嘗祭の斎行後、拜殿におきまして篤志奉納者の皆様に感謝状と記念品の贈呈をいたしました。

ご奉納いただきました皆様のご芳名を掲載し、改めて厚く御礼申し上げます。

- 浄財 (株)鈴木長十商店 鈴木 康之
 - 浄財 (株)ネクサスコーパーレーション 高林 滋
 - 絵画一幅「群青の富士」 鳥居 禮
- (順不同・敬称略)

菊花展の開催

森町菊盛会により、十一月一日から十三日迄社頭にて開催されました。



菊花展の開催

書家・杭迫柏樹氏喜寿記念 個展の開催及び石碑の奉納

森町出身で書家の杭迫柏樹氏が喜寿を迎えられ、当社にて記念の個展が十月十九日より十二月四日に亘り開催されました。現在は京都を拠点として日展理事等をお務めになりご活躍をされておりますが、強く故郷に思いをよせられ「杭迫柏樹 書 ふるさとの詩」展として開催の運びとなりました。

斎館・研修室・休憩所を会場として活用し、新作七十七点の作品が披露・展示されました。今回はタイトル通り森町に関わる作品が創作されており、なかには絵画や陶器などとコラボした作品で書表現されておりました。

初日は拝殿において正式参拝及び開会式が行われ、贈呈式では杭迫先生より静岡県（川勝知事）・森町（村松町長）・遠江総合高校（竹川校長）・小國



第一会場（研修室）

神社（打田宮司）へと、それぞれに因んだ作品が寄贈されました。当社には、「敬神崇祖」の文字が刻まれた石碑が寄贈されました。この作品となった石も杭迫先生自ら四国でお選びいただいたものです。

開会式後、場所を石碑が建立された門前太鼓橋前に移し、除幕式が行われました。生憎の雨ではありましたが、この石の特性で濡れると文字がより鮮明に浮かび上がりました。その後セレモニーが行われ、お集まりいただいた皆様に盛大に喜寿記念のお祝いをいたしました。

開催期間中は、紅葉の時期とも重なりました。また、杭迫先生ご自身も来場された日には、意欲的にサイン会を行われるなど、懇切丁寧に書の魅力をお伝えいただきました。



第二会場（斎室）

「紅葉まつり」の開催

十一月二十七日、紅葉の色付きは昨年比べて一週間ほど遅れましたが、晩秋の寒さを感じられない程の暖かい陽気のなかで恒例の「紅葉まつり」が開催されました。紅葉の見頃を迎えたいばかりの境内では、舞殿にて琴の奉納演奏、参拝者休憩所前や宮川沿いでは野点が行われました。

また、甘酒のおもてなし、門前での森町茶商組合によるお茶の接待・販売、宮川沿いの赤い橋附近では当社敬神婦人会によるおしるこの接待が実施されました。夜間は紅葉を下方からライトアップするなど、終日お楽しみいただきました。



宮川沿いの野点（山下社中）（11月27日）

遠州とこわか塾 第二期の開催

昨年九月に開塾いたしました「遠州とこわか塾」が第二期（平成二十三年九月一日〜平成二十四年八月三十一日）を迎え、これまでに二回の講演が開催されましたので、ご報告いたします。

【第一期】平成二十三年十月十六日（日）午後三時 小國神社研修室

演題「日本よ、永遠なれ」〜領土問題等、講師 参議院議員 山谷えり子先生

【第二期】平成二十三年十二月十日（日）午後三時 小國神社研修室

演題「神宮の魅力」〜宇治橋、五十鈴川、風日祈宮橋の歴史をふまえて、講師 神宮主事 音羽 悟先生

第一回を開催するにあたり、先立ちまして出席された塾生の皆様が、拝殿におきまして正式参拝をお受けになりました。また、講演前に塾長であります打田宮司より、改めて当塾の趣意をご説明申し上げます。

この二回の講話を通じて、歴史を鑑み、本来の日本の姿を守り、本流を継承していくことが再生への大きな原動力になるといふことをご教授いただきました。そして、そのためには個々の実行力がいかに重要であるかを認識いたしました。



講師・山谷えり子参議院議員（10月16日）



修理された御本殿屋根の軒先 (7月29日)

御本殿松皮葺屋根の軒先修理

昭和五十二年の葺き替え工事より三十余年経過し、損傷した御屋根の修理を施工致しました。

この工事は、松皮屋根を良好な状態で保つための小修理として、摩耗の激しい軒先の松皮を取り外し葺き替え、雨水の浸透を防ぐために施工致したものです。

しばらくは施工面と未施工面に色の違いがありますが、二〜三年の後にはその境が分からない状態となっております。

この工事を以て、平成十九年より取り組んできた拜殿・並宮・御本殿の小修理事業を完了しました。



非常用自家発電設備 (8月31日)

非常用自家発電設備の設置

本年三月に発生した東日本大震災の被害状況は惨憺たるものであります。

東海地震の発生が危惧される本県においても、対策が進められています。

殊に当社では、正月を始めとする雑踏時期と地震等の災害が重なった場合を考えますと、非常の備えが必要となります。

その手始めとして、非常用自家発電設備の設置工事に着手し、八月末を以て完了しました。

今後も様々な災害等を想定し、対策を進めていく予定です。



御本殿北側・根元より倒れた杉 (9月23日)

九月二十一日上陸・台風十五号の被害

全国各地に大きな被害を与えた「台風十五号」は、九月二十一日の午後二時頃、浜松市付近に上陸いたしました。台風が浜松に上陸することは、二十年ぶりのことでした。

この台風による当社での被害は、目通り三メートル程の杉の木が三本と松が一本倒木いたしました。また、台風が上陸してからもなく停電となり、翌日の夕方まで続きましたが自家発電設備により社務等に影響はありませんでした。

また、御本殿を始めとする社殿及び摂末社等の建物には幸い被害はありませんでした。

復興復旧支援活動へ出向

平成二十三年三月十一日、東北地方に甚大な被害をもたらした東日本大震災を受け、宮城県石巻市へ神道青年全国協議会が主催する復興支援活動に参加しました。

今回で三回目となるこの活動は十一月六日から十月八日の三日間に亘り、活動内容を神社清掃奉仕、一般ボランティア奉仕の二つに分け、各県がそれぞれ各地区を分担して取り組みました。

静岡県は福井県と合同で神社清掃奉仕を担当し、石巻市内にある拜殿志神社で境内の瓦礫や漂流物の撤去、草取りを行いました。

神社の被害は本殿の一部と社務所、手水舎以外は全て津波によって流されておるため手配ができない現状で、復旧の目処は全く立っていませんでした。

清掃奉仕後は市内の視察をしました。基礎だけが残った住宅跡、流されてきた瓦礫や車など、被害は甚大でした。最終日に視察した神社は社殿も氏子地域の方々の生活の場も全て流されており、復興は難しいといわれている地区でした。

今回の活動を通じて被災地の動向に注視し、これからの震災対策に生かしていかねばならないと痛感しました。

(加藤 雅之)



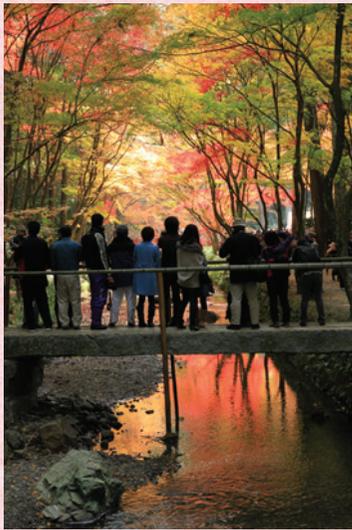
被災神社への参拝 (11月8日)

第九回「写真コンテスト」のご報告

去る八月一日、四二八点の応募作品の中から厳正な審査の結果、各賞が決定いたしました。受賞者の表彰式は九月十日に小國神社拝殿において正式参拝後実施いたしました。また、作品展は当社研修室にて入賞作品を含めた五十点の作品を展示いたしました。

なお、開催にあたり後援・協賛をいただきました皆様方に改めて御礼申し上げます。

- 最優秀賞 鈴木 彰久 (磐田市)
- 優秀賞 曾布川 順子 (浜松市)
- 優秀賞 小山 勝二 (浜松市)
- 優秀賞 渥美 琴行 (磐田市)
- 特別賞 伊藤 正義 (浜松市)
- 入選 鷹野 節二 (磐田市)
- 入選 清水 重男 (浜松市)
- 入選 望月 正晴 (静岡市)
- 入選 光飛田 悦子 (鳥田市)



鈴木彰久「今朝の秋」



曾布川順子「しだれ桜咲く頃」



小山勝二「御田植祭り」



伊藤正義「ライトアップ」



渥美琴行「シャクナゲの森」

- 入選 金子 育史 (敬称略)
- 入選 川田 廣行 (浜松市)
- 入選 青島 秀隆 (磐田市)
- 入選 春日 正夫 (静岡市)
- 入選 鈴木 原清 (森町)
- 入選 小松 昌弘 (浜松市)
- 入選 杉本 四郎 (藤枝市)
- 入選 河村 一郎 (浜松市)
- 入選 木下 安雄 (浜松市)
- 入選 鶴飼 康裕 (浜松市)
- 入選 鈴木 真知子 (袋井市)

- 河原崎 太馳 (御前崎市)
- 相羽 祐輔 (菊川市)
- 鈴木 瑞歩 (森町)
- 佐藤 慶弥 (森町)
- 松下 榮悟 (磐田市)
- 松下 蓮矢 (森町)
- 平野 琴音 (浜松市)
- 河合 里緒 (掛川市)
- 小杉 恵生 (掛川市)
- 百鬼 舞 (磐田市)
- 長井志保里 (浜松市)

命 名

平成二十三年五月一日
平成二十三年十一月三十日

- 市川 大地 (袋井市)
- 中村 勇斗 (浜松市)
- 良知 希垂 (掛川市)
- 内山 舜太 (浜松市)
- 河合 璃空 (岐阜市)
- 渡邊 心那 (掛川市)
- 石川 智史 (菊川市)
- 鈴木 蒼祐 (袋井市)
- 鈴木 珠奈 (森町)
- 弓 琴葉 (掛川市)
- 山田 愛斗 (掛川市)
- 四ノ宮 理人 (掛川市)
- 石津 雄琉 (掛川市)
- 橋本 侑樹 (森町)
- 吉川 史玖 (湖西市)
- 賀茂 泰作 (浜松市)
- 今井 結登 (掛川市)
- 向井 友祐 (袋井市)
- 高塚 湊斗 (掛川市)
- 田端 結斗 (掛川市)
- 中野 太喜 (袋井市)
- 増田 梨彩 (御前崎市)
- 安藤 京祐 (森町)
- 尾崎 ほなみ (藤枝市)
- 河原崎 まのん (御前崎市)
- 早野 倫央 (浜松市)
- 北川 颯志 (掛川市)
- 田邊 翔大 (浜松市)
- 高木 奏典 (磐田市)
- 石原 百華 (磐田市)
- 大橋 和空 (磐田市)
- 山本 珠莉愛 (袋井市)
- 内山 侑 (袋井市)
- 石川 喜大 (浜松市)
- 村松 昂 (袋井市)
- 名倉 愛莉 (袋井市)
- 栗飯原 由愛 (袋井市)
- 袴田 千湮 (浜松市)
- 友田 幸輝 (森町)
- 松井 孝介 (湖西市)
- 加茂 遥斗 (磐田市)
- 福山 和歩 (磐田市)
- 鈴木 美紅 (磐田市)
- 久保 江美 (吹田市)
- 澤木 洗太郎 (浜松市)
- 北川 湊都 (袋井市)
- 廣岡 宗朗 (袋井市)
- 富田 航平 (菊川市)
- 山田 奈知 (磐田市)
- 藤森 理貴 (磐田市)
- 木根 利月 (袋井市)
- 小野 友嘉 (浜松市)
- 野中 一惺 (川崎市)
- 安藤 巧 (森町)
- 原口 莉子 (牧之原市)
- 玉井 敬大 (袋井市)
- 新井 洗大朗 (掛川市)
- 大石 歩実 (掛川市)
- 菅原 小陽 (掛川市)
- 鈴木 亨太郎 (掛川市)
- 山勢 創己 (掛川市)
- 安田 彩乃 (浜松市)

○当社では、お子様の命名を申し受けております。

まつり歳時記

十二月〜三月

十二月 師走

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十七日 鎮火祭 (午後三時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 十八日 滝宮社例祭 (午前十時)
- 十八日 初穂献納祭 (午前十一時半)
- 二十三日 天長祭 (午前九時)
- 二十五日 煤払祭 (午後一時)
- 三十一日 大祓式・除夜祭 (午後三時)

一月 睦月

- 一日 初祈禱祭 (午前零時)
- 一日 歳旦祭 (午前三時)
- 二日 日供始祭 (午前八時)
- 三日 元始祭・追儺祭 (午前八時)
- 三日 田遊祭 (午後一時)
- 四日 甲子祭 (午前八時)
- 六日 本宮山例祭 (午前十時)
- 七日 昭和天皇祭遙拝式 (午前八時)
- 七日 神明宮参拝 (午前九時)
- 十一日 手鉞始祭 (午前九時)
- 十五日 どんど焼祭 (午前九時)
- 十七日 寒の丑日水汲祭 (午前二時)
- 十七日 八王子社例祭 (午前九時)
- 十七日 御弓始祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 二十日 二月三日 厄除大祭 (午前九時)

二月 如月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 三日 節分祭世話人祈禱祭 (午前十一時)
- 三日 節分祭 (午後二時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十一日 紀元祭 (午前十時半)
- 十五日 養社聖王白山樹祭 (午前九時)
- 十五日 塩井神社例祭 (午前十時)
- 十八日 祈年祭 (午前十時)

三月 弥生

- 一日 月次祭 (午前九時)
 - 四日 初甲子祭 (午前九時)
 - 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
 - 十七日 真田城趾慰霊祭 (午前十時半)
 - 十七日 鉞執社例祭 (午後一時半)
 - 十八日 月次祭 (午前九時)
 - 二十日 春季皇霊祭遙拝式 (午前八時)
- 〔例祭日程のお知らせ〕
- 四月 十四日 舞楽奉奏 (午後二時)
 - 十五日 舞楽奉奏 (午前十一時)
 - 十五日 神幸祭 (午後二時)
 - 十七日 前日祭 (午前十時)
 - 十八日 例祭 (午前十時)

師走の大祓

十二月三十一日午後三時より師走(年越)の大祓式を斎行致します。

当日、ご参列いただければ神職とともにお祓いをお受けいただけますので、是非ともご家族の皆様お揃いでお申し込みの上、ご参列いただきますようご案内申し上げます。

尚、大祓の人形は一ヶ月前より、祈禱をお受けいただきました方々に、または社頭にてお頒け致しております。ご希望の方は当社までお問い合わせ下さい。

皆様と一緒にお願いをして、清々しく新たな気持ちで新年を迎えましょう。

小國神社社務所 祭儀課 大祓係
TEL 〇五三八八八九七三〇二
FAX 〇五三八八八九七三六七



師走の大祓 (平成22年12月31日)

古代の森シリーズ 33

玉串

玉串とは榊の枝に紙垂や木綿(麻苧)を付けたもので、拝礼する際に神前に捧げるものです。

由来については、神霊の依代であった説が有力であり「古事記」においては、五百津真賢木に玉や鏡などをつけて、天の岩戸にお隠れになられた天照大御神の出御を仰いだということが記されています。

また、語源にも幾つかの説があり、本居宣長は神に手向けるため「手向串」の意味として、賀茂真淵・平田篤胤などは、神話の記述の通り串に玉などを付けたから「玉串」とし、六人部是香は神霊が宿るものであるため「霊串」であるとしています。

捧げる方法
法は、枝の根本を神前に向けて捧げるのが一般的で、皇室では表を神前に向けて筒に立て、伊勢神宮では葉先を神前に向けて捧げています。



御神前への捧げ方向



玉串

新春祈禱のご案内

平成二十四年の新春祈禱を例年通りご奉仕いたします。

当日の受付は混雑が予想されますので、年内の予約受付をご利用ください。

尚、個人の祈禱は当日受付にて毎日ご奉仕いたしております。

ご家族お揃いでご参拝くださいますようお願い申し上げます。

- 一、予約対象 会社及び個人事業者
- 一、申込方法 電話またはFAX等にて申し受けます。
- 一、ご相談、ご不明の点がありましたら、左記までお問い合わせください。

小國神社 新春祈禱予約係
 TEL 〇五三八一八九七三〇二
 FAX 〇五三八一八九七三六七



どんど焼 (平成24年は1月15日に斎行)



新授与品・大國だるまの授与(元旦より)



新授与品・破魔弓矢の授与 (平成24年1月20日より)

厄除大祭のご案内

一月二十日～二月三日

人生の節目に当たる厄年は、健康、仕事、私生活などあらゆる面で難にありやすい年頃といわれ、無事を願う気持ちは今も昔も変わりません。

小國神社では一月二十日より二月三日まで厄除大祭を執り行います。平成二十四年の厄年に当たる方は、「厄除」のご祈禱をお受けになり、健やかな日々の生活をお過ごしください。

尚、二月三日は混雑いたしますのでお早めにお越しくださいますようご案内申し上げます。

○祈禱料 五、〇〇〇円より

○厄除大祭神札及び御守を授与いたします。

○祈禱受付 午前九時～午後四時

一平成24年 厄年表一

男	前 厄	本 厄	後 厄
	昭和28年 60才	昭和27年 61才	昭和26年 62才
性	昭和47年 41才	昭和46年 42才	昭和45年 43才
	昭和64年 平成元年 24才	昭和63年 25才	昭和62年 26才
女	前 厄	本 厄	後 厄
	昭和52年 36才	昭和51年 37才	昭和50年 38才
性	昭和56年 32才	昭和55年 33才	昭和54年 34才
	平成 7年 18才	平成 6年 19才	平成 5年 20才

「諸藝上達守」の授与

この御守は、縮緬生地(しゆもん)に平安時代調の草木染めを施したものです。「諸藝上達守」の筆字は森町出身で日本・中国・欧米にて展覧会に出品、また多数の編著書(へんしやくしょ)を出版されている書家・杭迫(かじま)柏樹(はくじゆ)先生の執筆によるもので、当社オリジナルの御守です。

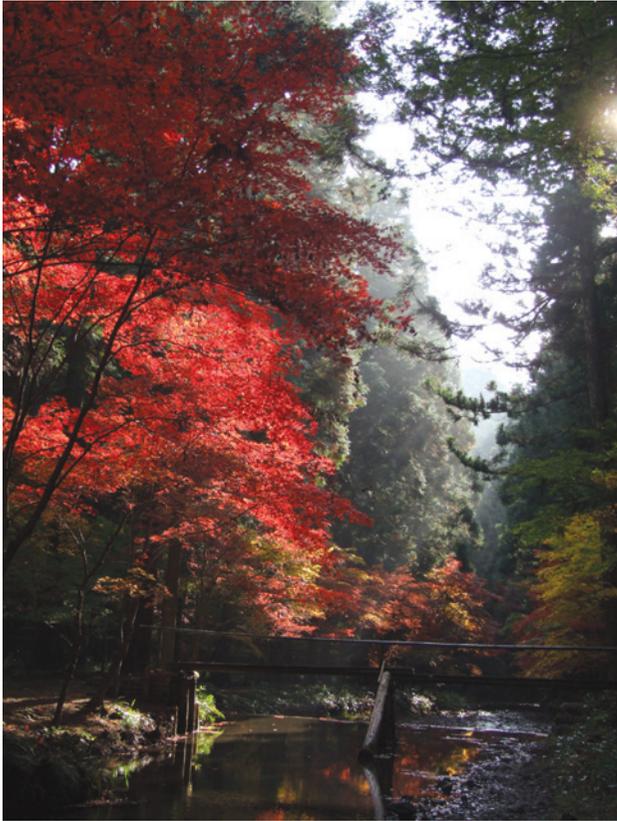
工芸・武芸・技芸・手芸などの習い事が上達されますよう祈願いたしております。

◎ほのかにお茶の香りが漂います。



諸藝上達守 初穂料 800円

「小國の杜・点描」



宮川の紅葉 (11月30日)



サッカー元日本代表・中田英寿氏ご参拝(7月23日)



遠州公開講座・林 英臣講師 (10月30日)



振興会の活動・「紅葉のそうじ」(11月8日)



総代会視察研修旅行・霧島神宮正式参拝 (9月8日)

平成二十三年十一月十八日
 「玉垂」(たまだれ) 第三十三号
 題字揮毫 神社本廳元総長 工藤 伊豆
 発行 小國神社社務所
 郵便番号 四三七〇二二六
 住 所 静岡県周智郡森町一宮三九五六一
 電話番号 〇五三八(八九) 七三〇二
 FAX 〇五三八(八九) 七三六七
 印刷 (有)デザインオフィス エム・エス・シー

平成二十三年九月二十四日(土)午前十時喜寿記念としてご奉納戴きました石碑前にて撮影いたしました。伊予の青石に刻み、奈良・吉野石にて整えております。ご参拝の折には是非ご覧ください。

表紙写真について

○当社の職員会は、九月に飛騨高山への視察研修を実施いたしました。また、出雲大社職員会では三班にわかれ、当社に正式参拝と大社造りの御本殿及び松皮採取木の視察を実施されました。出雲大社は現在造営事業中であり、平成二十五年に遷座祭が斎行されます。

編集後記

○「玉垂」三十三号をお届けいたします。十月の祭事行事を中心に報告させていただきました。十九日の川勝知事並びに杭迫先生の石碑除幕式は、大雨警報がでている中での実施でありました。大変な記念日となりましたが、出席者には深く記憶に残るセレモニーとなりました。



敬神婦人会の活動・「おしるこ」のおもてなし(11月27日)